

# 川上村第2期データヘルス計画の 中間評価・見直し

長野県南佐久郡川上村  
令和3年3月

# 目次

1. はじめに
2. 第2期データヘルス計画の中間評価・見直しに向けての考え方  
(ガイドラインに沿って)
  - A) 第2期データヘルス計画の中間評価・見直しのスケジュール
  - B) 中間評価・見直しの目的と留意点
  - C) 保険者によるデータヘルス計画の中間評価・見直しの具体的な流れ
- 3.1 目標、目標値の見直しについて  
(概要)
- 3.2 目標、目標値の見直しについて  
(データ分析)
4. 計画内容の自己評価の実施 (様式6)
  - STEP1: データヘルス計画の目標実績の洗い出し
  - STEP2: 個別保健事業の目標実績の洗い出し
  - STEP3: 個別保健事業の目標・方向性の検討
  - STEP4: データヘルス計画に関する評価
5. まとめ

# 1. はじめに

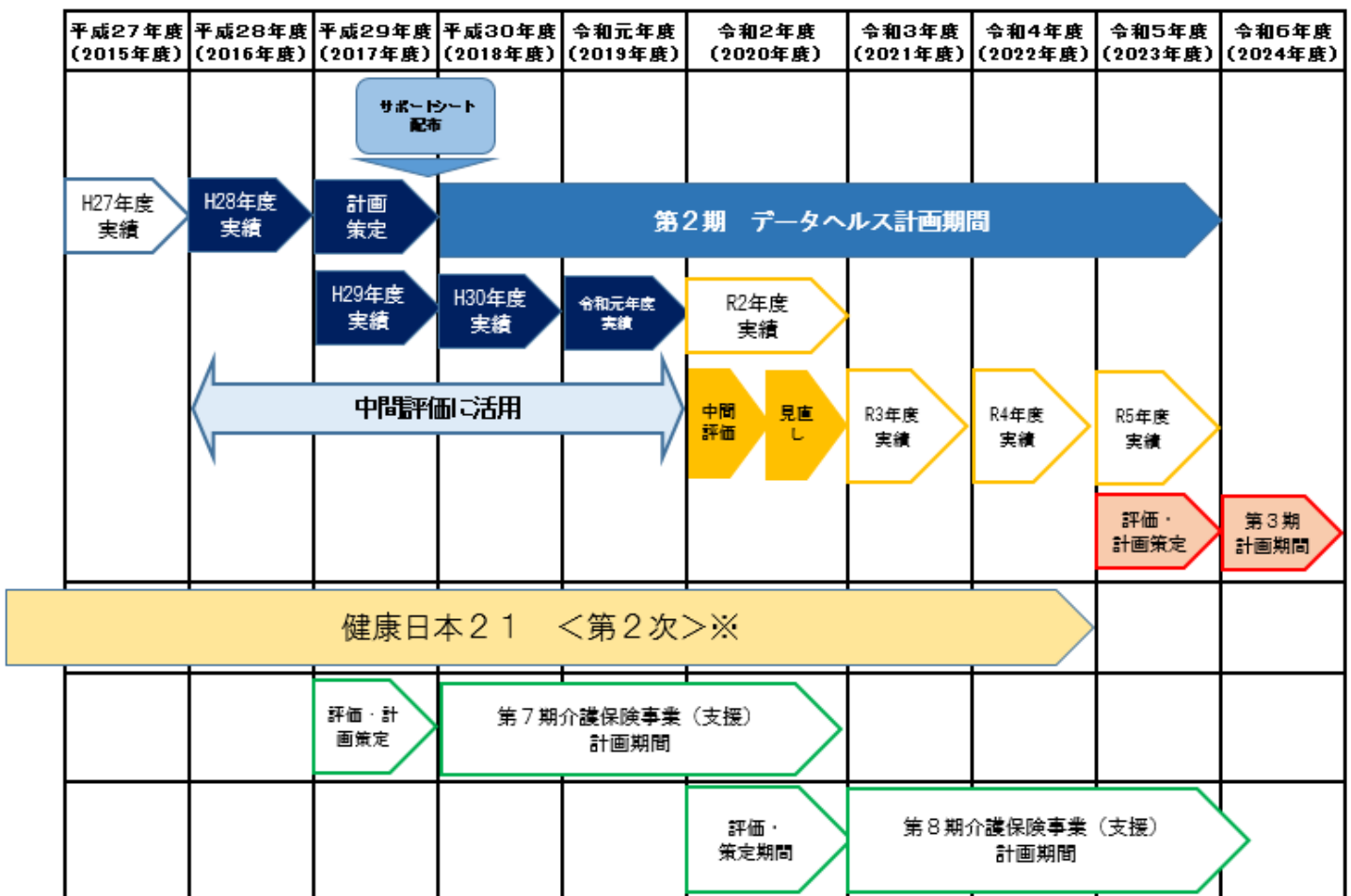
川上村においては、国の指針に基づき第2期データヘルス計画を定め、生活習慣病対策をはじめとする被保険者の健康増進により、「健康寿命の延伸」と「医療費の適正化」及び「被保険者の財政基盤の強化」を図られることを目的としている。

令和2年度は中間評価の見直しの時期にあたりガイドラインに基づき、評価・見直しを実施したところである。

## 2. 第2期 データヘルス計画の中間評価・見直しに向けての考え方（ガイドラインに沿って）

### A) 第2期データヘルス計画の中間評価・見直しのスケジュール （国保・後期高齢者ヘルスサポート事業ガイドライン改定令和2年6月）

第2期データヘルス計画の中間評価・見直しのスケジュール



※健康日本21 <第2次>を基に都道府県や市町村が策定する健康増進計画は、それぞれの自治体の状況に応じて計画期間や時期が異なる。

## B) 中間評価・見直しの目的と留意点

### <目的>

立案した計画が軌道に乗っているかを確認し、進捗状況により滞っていれば事業効果を高めるための改善の検討を行い、目標達成に向けての方向性を見出すことである。

また、中間年度に計画全体の目標や事業評価の見直しを実施し、最終的な事業や計画の目的・目標の達成に向けた体制作りをする必要がある。

### <留意点>

データヘルス計画全体の評価を行うために個別保健事業計画に基づいて実施された事業の実績を振り返り、データ分析等をもとに4つの観点（ストラクチャー・プロセス・アウトプット・アウトカム）で管理評価を行う。

中間評価においては、経過年数が短く評価が困難となるため、計画期間の満了時、次期計画策定の段階での見直しも考えられる。

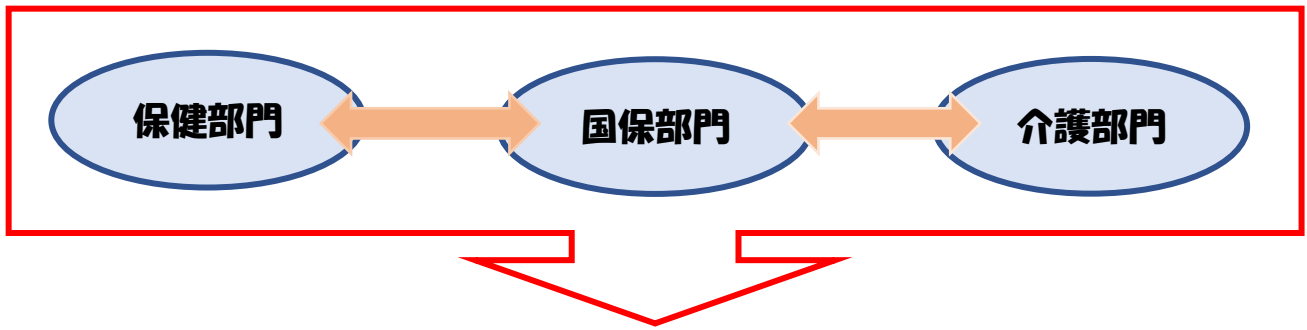
データヘルス計画の目標の達成が見込まれる場合は個々の保健事業が順調かつ目標通りに進んでいる可能性がある。

反対に、データヘルス計画の目標と実績値が大幅に剥離している場合は設定した目標、事業内容、評価方法等を確認し、課題等の確認の上必要に応じて実施体制等の見直しをする必要がある。また、達成が極めて困難な場合には達成状況に応じて目標を再設定することも考えられる。

### <評価結果と事業方向性の考え方>

- a：改善している⇒そのまま事業実施の継続
- b：変わらない⇒程度に応じた計画の見直しや軌道の修正を検討し、方向性を確認する
- c：悪化している⇒程度に応じた計画の見直しや軌道の修正を検討し、方向性を確認する
- d：評価困難⇒評価が困難になった理由を明確化し、目標や指標設定の見直しを行う

## C) 保険者によるデータヘルス計画の中間評価・見直しの具体的な流れ



- ① 計画中間評価体制の整備
- ② 実績値の評価（保険者による計画内容の自己評価）
- ③ 目標値、評価指標の見直しや事業の方向性の検討



評価委員会による自己評価結果の確認助言



中間評価・見直し

### 3. 1 目標、目標値の見直しについて（概要）

第2期データヘルス計画全体の実績の確認、そして、全体目標を達成するための個別保健事業実績の確認・評価を実施した。個別保健事業の成功要因、未達要因、事業の方向性、最終目標値の確認のため、個別保健事業評価シートを用いた。そのうえで、第2期データヘルス計画全体の成功要因、未達要因をさぐり全体の最終目標値を見直した。

指標や目標値の変更については、すでに中間評価において最終目標値に達していたものについては目標値を見直した。また、評価が困難な場合や目標値と実績値が大きくかけ離れているものについては実態に応じたものになっている。

#### <主な変更点>

- 「特定健診受診率の増加60%」については、第2期データヘルス計画全体の目標を達成するためには重要な保健事業であることをあらためて認識したので初期目標60%を65%に上向き調整する。
- 「特定保健指導実施率の増加60%」については、向上の取り組みをはじめたところであり初期目標値60%が実態に即していない為、50%とやや下向き調整する。
- 「脳血管疾患や虚血性疾患の総医療費に占める割合3%減少」については、すでに達成しているため「割合の維持」に変更する。
- 「糖尿病性腎症による透析導入者割合が3%減少」については評価が困難なため「糖尿病性腎症による新規透析導入者0人」と変更する。
- 「メタボリックシンドローム該当者、予備軍の割合減少」については川上村の特徴として男性8割女性2割と男性が突出して多いため、男性で評価する。「男性のメタボリックシンドローム該当者、予備軍の割合減少」とし、実態に即した目標値とする。
- 「健診受診者の高血圧者や脂質異常症者、糖尿病者の減少」については、具体的な目標値がなかったため、実態に即した現実可能な目標値の設定とする。
- 「糖尿病未治療者を治療に結びつける割合」であったが未治療者の抽出条件が決まっていなかった為評価が困難であった。そこで、「健診受診者のうち糖尿病D・Eランクの判定を受け、受診につながった人の割合」として目標を明確にする。
- 各種がん検診については国との比較をするため地域保健事業報告に則った「対象年齢の検診受診率」に変更する。

- 「健康ポイントの取組みを行う実施者の割合」については、実施側を増やす意味合いにも取れる為、「健康ポイントの取組みを行う住民の割合の増加」と文言を分かり易くする。
- 「後発医薬品の使用割合80%以上」については H30 年度にすでに80%以上に達し、以降も80%以上を維持しているため、「使用割の維持」に変更する。



## 3. 2 目標、目標値の見直しについて（データ分析）

### 1) 第2期データヘルス計画の目的と目標について

#### (1) 全体の目的

- ①健康寿命の延伸  
平均自立期間の延長
- ②医療費適正化  
一人当たり医療費の伸びの抑制
- ③財政基盤の強化  
保険者努力支援制度の取り組み

#### (2) 目標

- ①特定健診受診率増加・特定保健指導実施率増加と特定保健指導対象者の減少
- ②脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病腎症の総医療費に占める割合がそれぞれ3%減少
- ③健診受診者のメタボリックシンドローム減少と脂質・糖尿病・血圧の異常値の割合減少
- ④がん検診の受診率の増加
- ⑤健康ポイントの取り組みを行う住民の増加
- ⑥後発医薬品使用率の増加

## 2) 全体の目的 に関する経過

### (1)健康寿命の延伸

平均自立期間(要介護2以下)は H28 年度からの経過を見ると男性は上昇傾向で+2 歳となっており、女性は+0.2 歳とほぼ横ばい傾向である(図表3-1)。

【図表3-1】<sup>1)</sup>

平均自立期間(歳)	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
男	83.7	83.7	84.1	85.7
女	86.9	87.0	87.4	87.1

<sup>1)</sup> 市町村のデータヘルス計画に関する評価指標 経年表(1)

### (2)医療費適正化

総医療費<sup>2)</sup>の変化について、川上村の R1 年度の総医療費は H25 年度からの傾向をみると上昇傾向にあると言える。また外来費用が上昇傾向にある一方、入院費用は横ばいで経過している(図表3-2)。

一人当たり医療費は H25 年度からの総医療費の増額に伴い増加傾向である(図表3-3)。

【図表3-2】<sup>3)</sup>

年度	総医療費			入院			入院外		
	費用	増減(3年前)	伸び率	費用	増減(3年前)	伸び率	費用	増減(3年前)	伸び率
R 1	¥556,744,091	¥32,005,460	6.10	¥203,334,998	¥26,711,965	15.1	¥189,127,004	¥14,285,561	8.2
H 2 8	¥524,738,631	△ ¥4,713,558	-0.89	¥176,623,033	△ ¥34,154,867	-16.2	¥174,841,443	¥10,370,123	6.3
H 2 5	¥529,452,189			¥210,777,900			¥164,471,320		

上昇

【図表3-3】<sup>4)</sup>

一人当たりの医療費（円）	
R 1	13,463
H 2 8	13,286
H 2 5	12,731



- 2) ここでいう総医療費はデータヘルス計画に関わらない（療養費や訪問看護等）医療費を含んだもの
- 3) 国民健康保険事業状況報告書 C 表(1)  
国民健康保険事業状況報告書 C 表(3)
- 4) KDB 健診・医療・介護データからみる地域の健康課題

### (3)財政基盤の強化

保険者努力支援制度の取り組みについては、H28年度は154ポイントであったが、R1年度には619ポイントになり、465ポイント上昇した(図表3-4)。

【図表3-4】<sup>5)</sup>

保険者努力支援制度の	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 1
総得点の増加 (P)	154	/	528	619



- 5) 県データ 保険者努力支援制度(市町村分)分析資料

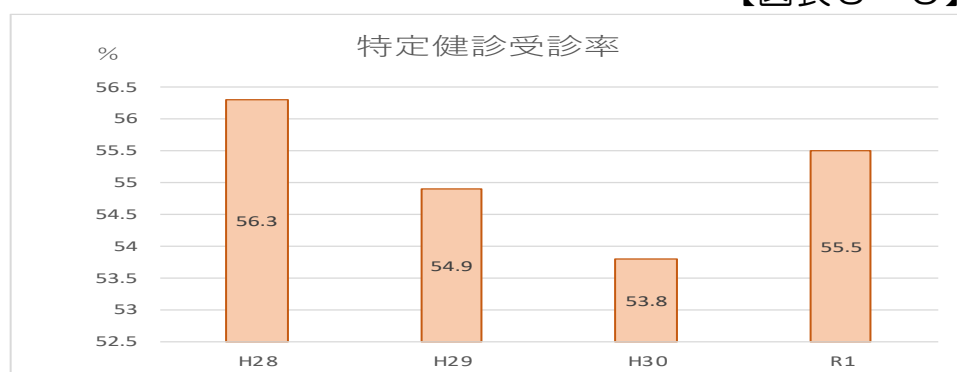
### 3) 目標に関する経過

#### (1) 特定健診受診率増加・特定保健指導実施率増加と特定保健指導対象者の減少

##### ① 特定健診受診率

H28年度の初期目標は「R5年度までに特定健診受診率を60%」としていた。H28年度からR1年度までの経過をみると、受診率は56.3%→55.5%とやや減少した(図表3-5)。しかし、国は特定健診受診率目標値を60%と掲げており、特定健診は今後もさらに受診率向上を目指して強化していく必要のある事業である。そのため目標は上げていく必要があると判断した。よって「R5年度までに特定健診受診率65%」を目標とする。

【図表3-5】<sup>6)</sup>

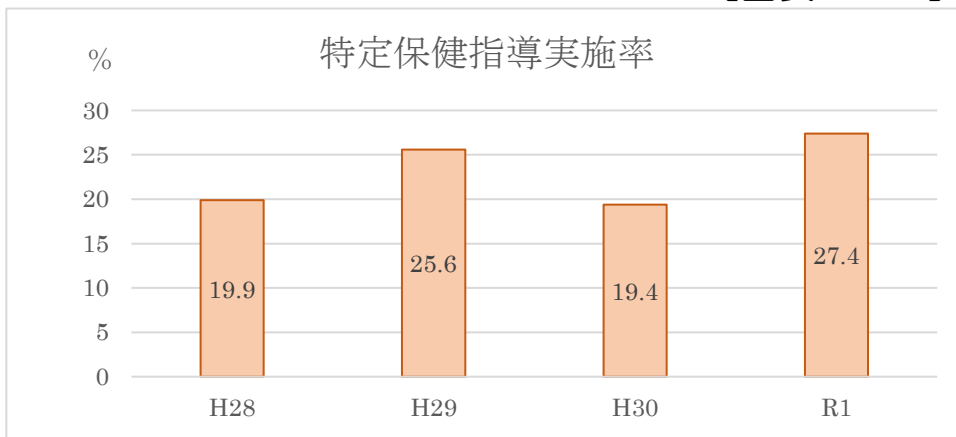


<sup>6)</sup> 国保保険者における特定健診等結果状況報告書

##### ② 特定保健指導

H28年度の初期目標は「R5年度までに特定保健指導実施率を60%」としていた。H28年度からR1年度までの経過をみると指導実施率は19.9%→27.4%と上昇傾向にある(図表3-6)。また、R2年度から特定保健指導率向上に向けた取り組みをはじめており、今後も保健指導実施率は向上していく見込みがある。しかし、現状20%台の保健指導率を60%まで上げるのは困難と考え、「R5年度までに保健指導率50%」を目標とする。

【図表3-6】<sup>7)</sup>

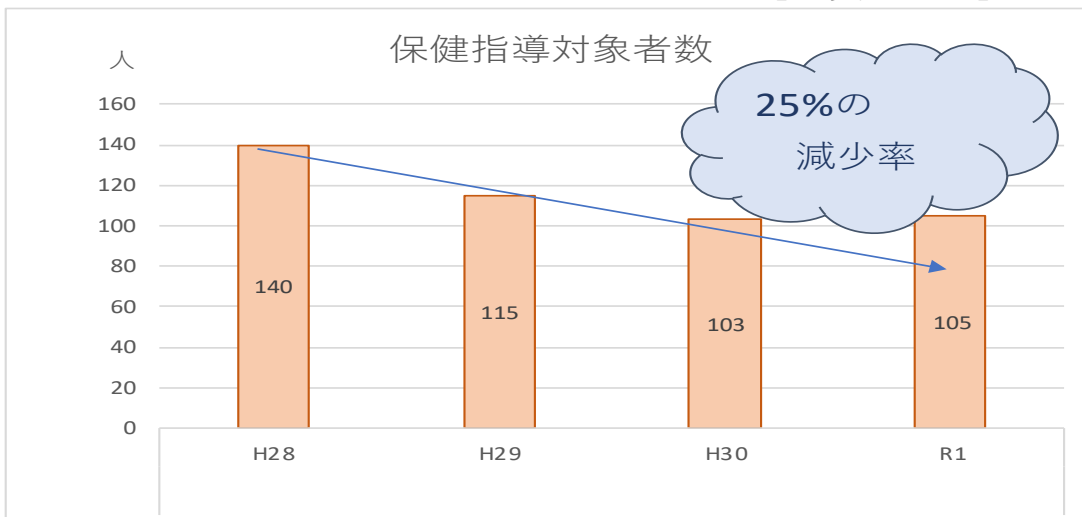


7) 国保保険者における特定健診等結果状況報告書

### ③特定保健指導対象者の減少

H28年度の初期目標は「特定保健指導対象者の減少率」としていた。H28年度からR1年度までの経過をみると、特定保健指導対象者数は140人→105人と減少しており、25%の減少率が見られている。国の目標は「H20年度比25%の減少」であるが、川上村は「H28年度比25%の減少」となっており（図表3-7）、すでに目標を達成している。よって、現状の105人から増えないことを目標として特定健診・特定保健指導事業を行っていく。よって「R5年までに特定保健指導対象者が105人」を目標とする。

【図表3-7】<sup>8)</sup>



8) 国保保険者における特定健診等結果状況報告書

(2)脳血管疾患、虚血性心疾患、糖尿病腎症の総医療費に占める割合がそれぞれ3%減少

### ①脳血管疾患

H28年度の初期目標は「R5年度までに脳血管疾患が総医療費<sup>9)</sup>に占める割合が3%減少」だったが、H28年度の総医療費に占める脳血管疾患の割合は既に0.93%であり、「総医療費に占める割合が3%減少」は実現不可能な目標値であった。H25年度からの傾向をみても脳血管疾患が総医療費に占める割合は減少傾向(図表3-8)にあり、現状維持が妥当であると考えられる。よって、「R5年度までに脳血管疾患が総医療費に占める割合を0.6%に維持」を目標とする。

【図表3-8】<sup>10)</sup>

脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）			
	年度	脳血管疾患の総医療費	総医療費に占める割合
国	R1	201,709,838,910	2.12
長野県	R1	3,307,343,100	2.18
川 上 村	<b>R1</b>	<b>2,735,400</b>	<b>0.57</b>
	H28	4,258,770	0.93
	H25	12,026,210	2.58



9) ここでいう総医療費とはデータヘルス計画に関わる疾患(腎不全、高血圧等)の総医療費であり、図表3-1の総医療費とは異なるものである。

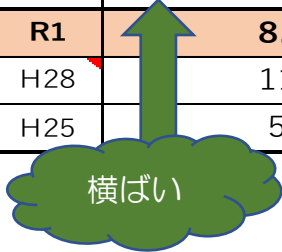
10) 保険者ネットワーク データヘルス計画 疾患別医療費に占める割合

### ②虚血性心疾患

H28年度の初期目標は「R5年度までに虚血性心疾患が総医療費に占める割合が3%減少」だったが、H28年度の総医療費に占める虚血性心疾患の割合は既に0.24%であり、「総医療費に占める割合の3%減少」は実現不可能な目標値であった。H25年度からの傾向をみると虚血性心疾患は横ばい傾向(図表3-9)であるが、心疾患は検査費や治療費の金額が高く、本村のように人口規模が小さいとその時の患者数で医療費割合が変わってしまう。そのため、現状維持を目標とし今後も経過を観察していく。よって「R5年度までに、虚血性心疾患が総医療費に占める割合を0.6%に維持」を目標とする。

【図表3-9】<sup>11)</sup>

虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）			
	年度	虚血性心疾患の総医療費	総医療費に占める割合
国	R1	161,226,114,590	1.70
長野県	R1	2,334,348,440	1.54
川 上 村	<b>R1</b>	<b>8,758,510</b>	<b>1.83</b>
	H28	11,603,640	2.54
	H25	5,929,900	1.27



11) 保険者ネットワーク データヘルス計画 疾患別医療費に占める割合

### ③糖尿病性腎症

H28年度の初期目標は「糖尿病性腎症による透析導入者の割合の減少 3%」を目標としていたが、何をもって3%の減少とするのか明確になっていなかった。そのため、「糖尿病性腎症による新規透析導入者数」に指標を変え評価することとした。

H28年度の透析導入者は1名だったが、R1年度までに毎年1人ずつ増え、糖尿病性腎症による透析導入者は計4人となった(図表3-10)。

透析に繋がらないよう糖尿病性腎症重症化予防の取り組みを強化していく。よって「R5年度までに新規透析導入者数 0人」を目標とする。

【図表3-10】<sup>12)</sup>

			人工透析		糖尿病	
			人数	割合	人数	割合
H25	全体	3,343	1	0.0%	1	100%
	65歳未満	2,920	1	0.0%	1	100%
	65~74歳	423	0	0.0%	0	0%
H28	全体	3,016	1	0.0%	1	100%
	65歳未満	2,527	1	0.0%	1	100%
	65~74歳	489	0	0.0%	0	0%
R1	全体	2425	4	0.2%	4	100%
	65歳未満	1969	3	0.2%	3	100%
	65~74歳	456	1	0.2%	1	100%

12) KDB 厚生労働省様式3-7

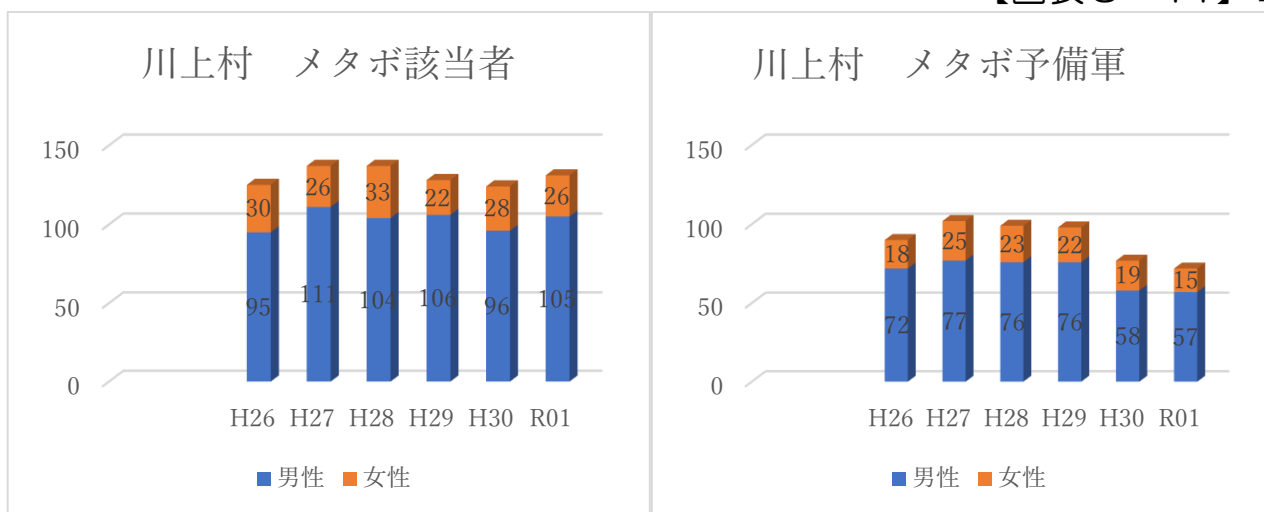
### (3) 健診受診者のメタボリックシンドローム減少と脂質・糖尿病・血圧の異常値の割合減少

#### ① メタボリックシンドロームについて

H28年度の初期目標は「健診受診者のうちメタボリックシンドローム該当者・予備軍の者の割合の減少」だったが、H28年度からR1年度までの統計を取る中で、本村のメタボリックシンドローム該当者・予備軍は男性が8割、女性が2割であることが分かった(図表3-11)。そこでメタボリックシンドロームの該当者・予備軍の減少率は男性のメタボリックシンドロームに焦点を当てることとする。

H28年度から R1年度の経過を見ると男性のメタボリックシンドローム該当者は健診受診者のうち30.2%→31.1%とやや上昇し、メタボリックシンドローム予備軍は健診受診者のうち22.1%→16.9%と減少傾向であった(図表3-12)。1年に2%ずつ該当者・予備軍が減っていくことを目標とする。よって「R5年度までに健診受診者のうちメタボリックシンドローム該当者となる男性の割合が24.0%、予備軍となる男性が9.0%」を目標とする。

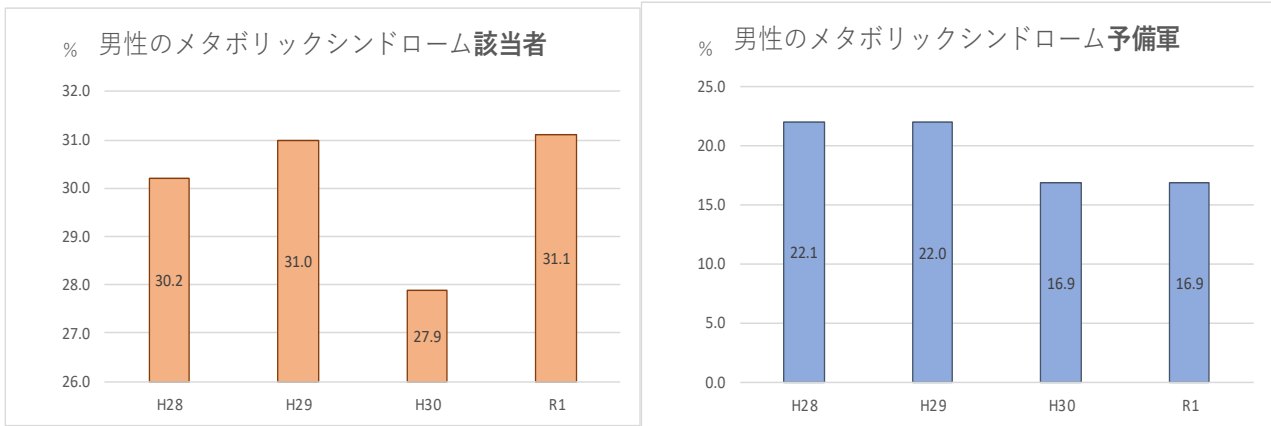
【図表3-11】<sup>13)</sup>



<sup>13)</sup> KDB 厚生労働省様式6-8



【図表3-12】 14)



14) KDB 厚生労働省様式 6-8

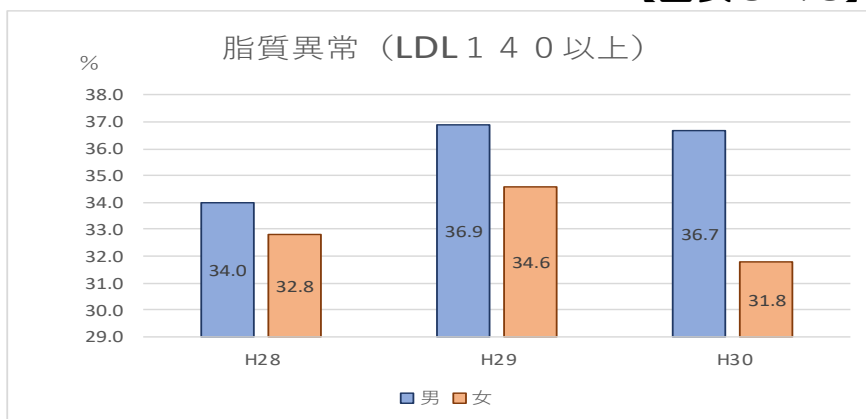
② 脂質異常者、糖尿病者、高血圧者に関して

脂質異常者、糖尿病者、高血圧者に関する H28年度の初期目標は「健診受診者の脂質異常者、糖尿病者、高血圧者の減少」であったが、何%減少させるのか具体的な目標設定ができていなかった。そのため実態に即した実現可能な目標設定とした。

①' 脂質異常 (LDL 140以上) について

H28年度の初期値は、健診受診者のうち男性は 34.0%、女性は 32.8%が LDL140 以上であった。H28年度からH30年度の経過をみると、男性の脂質異常者の割合は 34.0%→36.7%と増加、女性は 32.8%→31.8%と減少していた (図表3-13)。よって「R5年度までに健診受診者のうち脂質異常者となる人の割合が、男性は 32.0%、女性は 27.0%」を目標とする。

【図表3-13】 15)

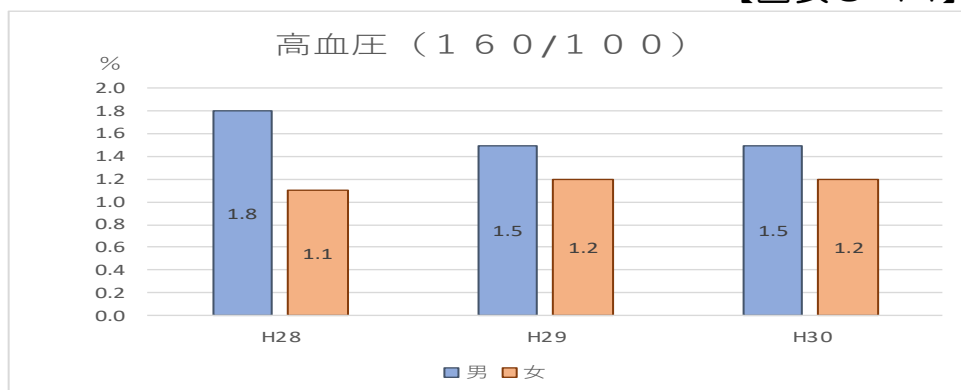


15) 国保保険者における特定健診等結果状況報告書

## ②' 高血圧(160/100以上)について

H28年度の初期値は、健診受診者のうち男性は1.8%、女性は1.1%が血圧160/100以上であった。H28年度からH30年度の経過をみると、男性の高血圧者の割合は1.8%→1.5%と減少、女性は1.1%→1.2%と横ばいだった(図表3-14)。よって「R5年度までに健診受診者のうち血圧160/100以上となる人の割合が、男性は1.0%、女性は1.0%」を目標とする。

【図表3-14】<sup>16)</sup>

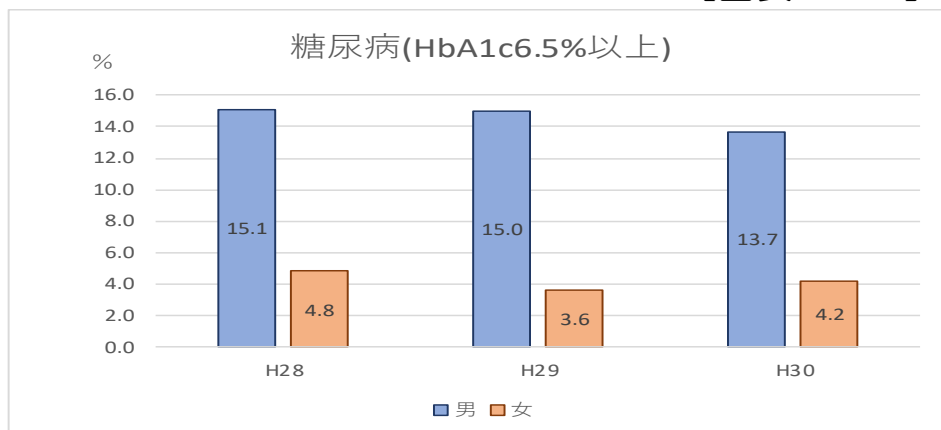


<sup>16)</sup> 国保保険者における特定健診等結果状況報告書

## ③' 糖尿病(HbA1c6.5%以上の人)について

H28年度の初期値は、健診受診者のうち男性は15.1%、女性は4.8%がHbA1c6.5%以上であった。H28年度からH30年度の経過をみると、男性の糖尿病患者の割合は15.1%→13.7%と減少傾向、女性は4.8%→4.2%と減少していた(図表3-15)。よって「R5年度までに健診受診者のうちHbA1c6.5%以上となる人の割合が、男性は10.0%、女性は3.0%」を目標とする。

【図表3-15】<sup>17)</sup>



<sup>17)</sup> 国保保険者における特定健診等結果状況報告

### ③ 糖尿病の未治療者を治療に結びつける割合の増加

透析の一番の原因にもなっている糖尿病を、早期発見・治療につなげるために受診勧奨事業を行った。

H28年度の初期目標は「糖尿病の未治療者を治療に結びつける割合 10%以上」だったが、未治療者の抽出条件が決まっておらず評価ができなかった。そこで、「健診受診者のうち糖尿病 D・E ランクの判定を受け受診につながった人の割合」として目標を明確にした。

1年ごとに医療機関受診率が10%ずつ上昇することを目指す。よって「R5年度までに健診受診者のうち糖尿病 D・E ランクとなった人が医療機関を受診する割合が50%」を目標とする。

#### (4)がん検診の受診率の増加

##### ①がん検診の評価指標について

すべてのがん検診受診における H28年度の初期目標は「〇人以上の人が検診を受ける（全年齢）」であったが、国・県との比較をするため、地域保健事業報告に則った対象年齢の検診受診率で評価することとした。

##### ①' 胃がん

評価指標は「50～69歳の胃がん検診（バリウム）受診率」とした。H28年度からR1年度の経過をみると、男性 4.9%→1.4%、女性 10.0%→1.0%となっている(図表 3-16)。実現可能な目標としてR5年度はR1年度を維持することとした。よって「R5年度までに男性の胃がん検診受診率 1.4%、女性の胃がん検診受診率 1.0%」を目標とする。

【図表 3-16】<sup>18)</sup>

	初期値			中間値	目標値
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	令和5年度
胃がん検診受診率の維持 (50～69歳)	男4.9%	男0.5%	男0.7%	男1.4%	男1.4%
	女10.0%	女2.5%	女0.9%	女1.0%	女1.0%

<sup>7)</sup> 地域保健事業報告

##### ②' 肺がん

評価指標は「40～69歳の肺がん検診（二重読影レントゲン）受診率」とした。H28年度からR1年度の経過をみると、男性 14.5%→10.3%、女性 28.9%→19.5%となっている(図表 3-17)。R5年度は現在よりも受診率が向上することとした。よって「R5年度までに男性の肺がん検診受診率 15.0%、女性の肺がん検診受診率 30.0%」を目標とする。

【図表 3-17】<sup>19)</sup>

	初期値			中間値	目標値
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	令和5年度
肺がん検診受診率の増加 (40～69歳)	男14.5%	男12.3%	男12.5%	男10.3%	男15.0%
	女28.9%	女25.7%	女25.5%	女19.5%	女30.0%

<sup>19)</sup> 地域保健事業報告

### ③' 大腸がん

評価指標は「40～69 歳の大腸がん検診（便検査）受診率」とする。H28 年度から R1 年度の経過をみると、男性 11.9%→9.4%、女性 25.2%→19.1%となっている(図表3-18)。R5 年度は現在よりも受診率が向上することとした。よって「R5 年度までに男性の大腸がん検診受診率 16.0%、女性の肺がん検診受診率 31.0%」を目標とする。

【図表3-18】<sup>20)</sup>

	初期値			中間値		目標値
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	令和5年度	
大腸がん検診受診率の増加 (40～69歳)	男11.9%	男11.7%	男12.7%	男9.4%	男16.0%	
	女25.2%	女24.9%	女25.5%	女19.1%	女31.0%	

<sup>20)</sup> 地域保健事業報告

### ④' 子宮頸がん

評価指標は「20～69 歳の子宮頸がん検診受診率」とする。H28 年度から R1 年度の経過をみると、女性 18.5%→34.8%となっている。R5 年度は現在よりも受診率が向上することとした。よって「R5 年度までに女性の子宮頸がん検診受診率 42.0%」を目標とする。

【図表3-19】<sup>21)</sup>

	初期値			中間値		目標値
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	令和5年度	
子宮頸がん検診受診率の増加 (20～69歳)	18.5%	17.8%	36.1%	34.8%	42.0%	

<sup>21)</sup> 地域保健事業報告

### ⑤' 乳がん

評価指標は「50～69 歳の乳がん検診（マンモグラフィ）受診率」とする。H28 年度から R1 年度の経過をみると、女性 9.2%→32.0%となっている。R5 年度は現在よりも受診率が向上することとした。よって「R5 年度までに女性の大腸がん検診受診率 40.0%」を目標とする。

【図表 3-20】<sup>22)</sup>

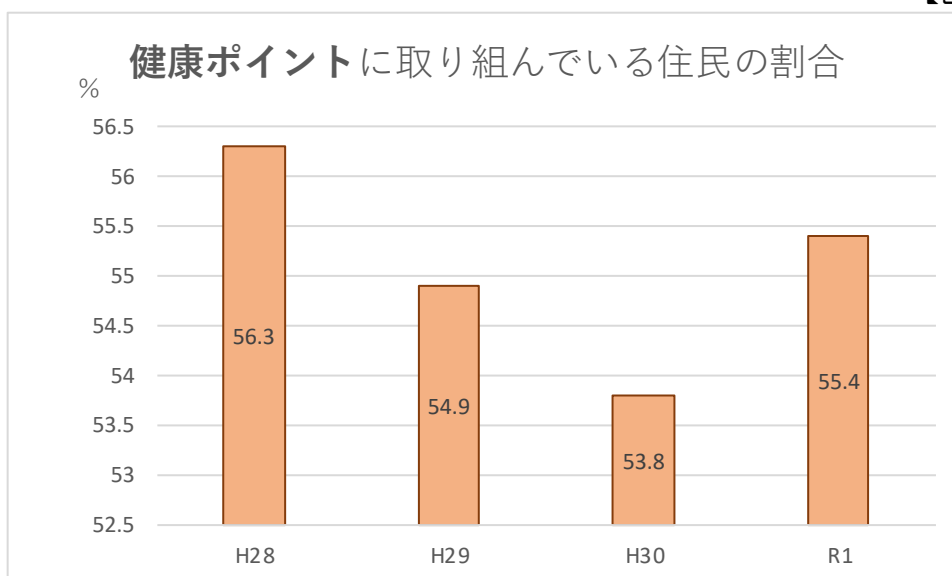
	初期値			中間値	目標値
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	令和5年度
乳がん検診受診率の増加 (50～69歳)	9.2%	33.2%	33.2%	32.0%	40.0%

<sup>22)</sup> 地域保健事業報告

## (5)健康ポイントについて

健康ポイントは「自身の健康に関心を持つ住民が増える」ことを目的として行っている事業である。H28年度の初期目標では「健康ポイントの取り組みを行う実施者の割合」を評価指標としていた。しかし、「健康ポイントの取り組みを行う実施者の割合」の意味が実施側ととらえられる面もあり評価が困難であるため、「健康ポイントの取り組みを行う住民の割合」と文言を分かりやすくする。

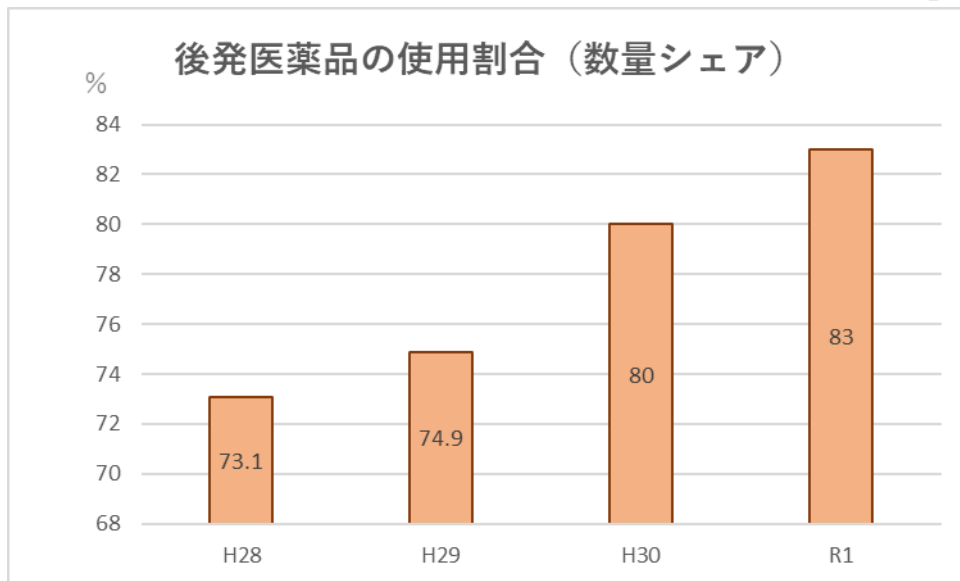
H28年度からR1年度の経過をみると健康ポイントの取り組みを行っている住民は56.3%→55.4%となっている。健康ポイントについては、R3年度にトレーニングルームの利用ポイントやがん検診受診時のポイント等、健康ポイント事業について検討中であり、今後も強化していく事業である。よって「R5年度までに健康ポイントの取り組みを行う住民の割合65.0%」を目標とする。

【図表 3-21】<sup>23)</sup><sup>23)</sup> 川上村保健福祉課統計

### (6)後発医薬品使用率の増加

H29年度の初期目標は「R5年度までに後発医薬品の使用割合80%以上」だったが、平成30年度に後発医薬品の使用割合が80%に達し、以降も80%以上を維持している。国は後発医薬品使用割合の目標値を80%と掲げているため、今後も使用割合を維持していく必要がある。よって「R5年度までに後発医薬品の使用割合を80%に維持」を目標とする。

【図表 3-22】<sup>24)</sup>



<sup>24)</sup> 国保総合システム

4. 計画内容の自己評価の実施 STEP 1、STEP 4

様式 6

データヘルス計画全体の目標										
目標	目標値	実績値				評価	達成につながる 取組・要素	未達につながる 背景・要因	今後の方向性	目 最 終 標 値
		ベース ライン	H29 年度	H30 年度	R1 年度					
健康寿命の延伸 ・平均自立期間	延伸	83.7歳 86.9歳	83.7歳 87.0歳	84.1歳 87.4歳	85.7歳 87.1歳	d	介護予防など地域包 括ケア事業との連携 の推進が必要	中間評価の時点では 評価は困難	高齢者一体化事業等 地域包括ケア事業と の連携の強化	男86.1 歳 女87.8 歳
医療費の適正化 ・1人当たり医療費	抑制	13,286円	13,116円	12,571円	13,464円	d	特定健診受診率や特 定保健指導率の増加 が一番重要	中間評価の時点では 評価困難(規模人口が 少ないため)	R5年度の個別事業目 標に向けて特定健診 受診率、特定保健指 導率の増加の取組に 重点をおく。 人員不足のなか、よ り効率的な事業内容 や選択をする。	13,100 円
財政基盤の強化 ・保険者努力支援制 度の取り組み	増加	154P	/		619P	a	歯周病検診の導入な ど新しい取り組みや 既存事業の見直し が必要	制度の理解が不十分	他町村の取組も参考 にしながら、まずは 個別事業について PDCAサイクルにもと づいて展開する	720P



4. 計画内容の自己評価の実施 STEP 2、STEP 3

様式 6

目標を達成するための個別保健事業

事業名	目標		実績値				評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	目標値
	指標	R5年度 目標値	ベース ライン	H29年度	H30年度	R1年度					
特定健診 受診者対策	特定健診受診率	増加 60%	56.3%	54.9%	53.8%	55.4%	b	-	今年度申込がない方に通知しているが通知内容が一般的であったり対象者が絞り込めていない。	キャンペーンと協働し、未受診者への効果的な通知や働きかけを行う。	65%
									追加健診(集団健診日以外に追加日を設ける)	集団健診日以外に隣村が行う健診日に相乗りしていたが対象者の選定や通知方法、周知方法が不十分であった。	
特定保健指導未利用対策	特定保健指導実施率	増加 60%	21.3%	23.1%	20.4%	26.4%	a	-	特定保健指導についての理解が得られにくく、拒否ケースが多い。	集団健診の初回指導委託を中止し、自前で実施する。 人間ドックで対象となった方は初回委託のみとし自前で実施する。	50%
特定保健指導未利用対策	特定保健指導対策者数	減少 130人	140人 (19.4%)	115人 (17.1%)	103人	105人	a	1人1人のカルテが作成されており指導内容が記録されている。	-	マニュアルに基づいた事業の継続を行う。	105人

#### 4. 計画内容の自己評価の実施 STEP 2、STEP 3

様式 6

### 目標を達成するための個別保健事業

事業名	目標		実績値					評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	最終目標値
	指標	R 5年度目標値	ベースライン	H29年度	H30年度	R1年度						
生活習慣病 重症者予防 対策	脳血管疾患の総医療費に占める割合	3%の減少	0.9%	1.5%	1.8%	0.6%	d	—	—	人口規模が小さいため6年で評価できない。維持ができるようにする。	0.6%を維持	
			2.5%	2%	2%	1.8%	d	—	—	人口規模が小さいため6年で評価できない。維持ができるようにする。	1.8%を維持	
糖尿病重症者予防対策	糖尿病性腎症による透析導入者の割合	3%の減少	1人	2人	3人	4人	d	—	—	R 2 マニュアルを作成し、村内診療所と連携し実施する。	新規者0人	

#### 4. 計画内容の自己評価の実施 STEP 2、STEP 3

様式 6

### 目標を達成するための個別保健事業

事業名	目標		実績値					評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	目標値
	指標	R 5年度 目標値	ベース ライン	H29年度	H30年度	R1年度	評価					
集団健診D Eランク者 面接・訪問 事業	健診受診者の高血圧者の割合 (160/100以上)	減少	4.3% 男 1.8% 女 1.1%	男 1.5% 女 1.2%	男 1.5% 女 1.2%	—	d	集団健診DEラ ンク者全員に面 接・訪問を実施 し、受診勧奨し ている。	医療機関受診勧 奨後、受診につ ながったかが評 価できている。	受診勧奨後、受 診につなごうか の評価が実施で きる仕組みを考 える。	男 1.0% 女 1.0%	
	健診受診者の脂質異常者の割合 (LDL140以上)	減少	男 34.0% 女 32.8%	男 36.9% 女 34.6%	男 36.7% 女 31.8%	—	d				男 32.0% 女 27.0%	
	健診受診者の糖尿病患者の割合 (HbA1C6.5以上)	減少	男 15.1% 女 4.8%	男 15.0% 女 3.6%	男 13.7% 女 4.2%	—	d				男 10.0% 女 3.0%	

#### 4. 計画内容の自己評価の実施 STEP 2、STEP 3

様式6

### 目標を達成するための個別保健事業

事業名	目標		実績値				評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	目標値
	指標	R5年度目標値	ベースライン	H29年度	H30年度	R1年度					
ライザップ事業	メタボリックシンドロームの割合	減少 男女メ タボ該	*男 メタボ率 30.2%	*男 メタボ率 31.0%	*男 メタボ率 27.9%	*男 メタボ率 31.0%	b	40歳未満に対する 取り組みを 実施。 早期年代からの 意識づけを 実施した。	体重を減量 できなかった が一年を通し ての継続が 難しい くりバウン ド者が 目立つ。	事業中止。体重減少には食改善：運動改善＝8：2（ライザップ調）のため食生活の改善を促す事業が必要と考え検討していく	男性 メタボ率 24.0%
	メタボリックシンドローム予備軍の割合	25%	*男 メタボ率 22.1%	*男 メタボ率 22.0%	*男 メタボ率 16.9%	*男 メタボ率 16.9%	a				男性 メタボ 予備群 9.0%

4. 計画内容の自己評価の実施 STEP 2、STEP 3

様式 6

目標を達成するための個別保健事業

事業名	目標		実績値				評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	目標値
	指標	R5年度 目標値	ベース ライン	H29年度	H30年度	R1年度					
糖尿病重症 化予防対策	糖尿病の未治療者に結びつける割合	10%以上	—	—	—	—	d	集団健診高血糖DEランク者全員に通知している。	はがき通知はR元年度からの事業実施で取り組み開始が遅かった。また、受診したかどうかの確認ができていない。	受診勧奨後、受診につながったかどうかの評価が実施できる仕組み作りを検討する。	健診受診者のうち糖尿病DEランク者50%

4. 計画内容の自己評価の実施 STEP 2、STEP 3

様式 6

目標を達成するための個別保健事業

事業名	目標		実績値				評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	目標値
	指標	R5年度 目標値	ベースラ イン	H29年度	H30年度	R1年度					
胃バリウム 検診	胃がん健診受診率	50%	男 4.9% 女 10.5%	男 0.5% 女 2.5%	男 0.7% 女 0.9%	男 1.4% 女 1.0%	c	—	村内で胃カメラ検診も実施している。(がん検診胃以外)施設が遠い。	委託を中止し、補助制度のみとする方向も視野に入れる。	R1年度 維持男 1.4% 女 1.0%
肺がん検診 (X-P2重読 影)	肺がん検診受診率	50%	男 14.5% 女 28.9%	男 12.3% 女 25.7%	男 12.5% 女 25.5%	男 10.3% 女 19.5%	c	精検未受診者に電話している。 村内診療所受診者は医師から勧めている。	らせんCT肺がん検診も実施している。	セット健診なので、特定健診受診率増加対策と同時にやっていく。	男 15% 女 30%
大腸がん検診 (便潜血検 査)	大腸がん検診受診率	50%	男 11.9% 女 25.2%	男 11.7% 女 24.9%	男 12.7% 女 22.5%	男 9.4% 女 19.1%	c	精検未受診者に電話をして勧めている。	PR方法の工夫が足りない。	村内において便のみ提出ができること、簡単な便検査方法であることをなどPRに力を入れていく。	男 16% 女 31%
集団 子宮がん検診	子宮がん検診受診率	増加 50%	18.5%	17.8%	36.1%	34.8%	a	個別通知で予約時間を指定したことで当日キャンセルが減少した。	—	事業継続していく。	42%
施設 子宮がん検診 (特定年齢)	子宮がん検診受診率						—	4つの委託医療機関と少ないため受診者数が少ない	R3年度～ 信州クーパー事業の利用で受診者数の増加を目指す。		

4. 計画内容の自己評価の実施 STEP2、STEP3

様式6

目標を達成するための個別保健事業

事業名	目標		実績値					評価	成功要因	未達要因	事業の方向性	目標値
	指標	R5年度 目標値	ベースラ イン	H29年度	H30年度	R1年度						
							H29年度					
乳がん検診 (マンモグラ フィ検診)	乳がん検診受診 率	増加 50%	9.2%	33.2%	33.2%	32.0%	a	個別通知で予約時間を 指定したこととで当日 キャンセルが減少した。	-	事業継続していく。 またR3年度～ 施設検診として信用 クーポン事業の利用 で受診者数の増加を 目指す。	40%	
ポイント事 業	健康ポイントの 取り組みを行う 実施者の割合	増加 65%	56.3%	54.9%	56.1%	55.4%	d	-	ポイントが付く事 業が集団検診しか なかった。	R3年度～評価がで きるまでの仕組作 りを検討しR4年度 ～実施していく。	住民 の割 合 65%	
後発医薬品 使用促進業 務	後発医薬品の使 用割合	80%以 上	73.1%	74.9%	80.0%	83.1%	a	後発医薬品希望シ ールを配布した。	-	使用割合を維持で きるように、使用 促進を継続して行 う。	80% 以上 を維 持	

## 5. まとめ

第2期データヘルス計画全体の評価からは、医療費適正化を図るため、特定健診受診率の増加や、特定保健指導率の増加が重要であり、さらに健康寿命の延伸を目指して、高齢者一体化事業や医療と介護の連携の推進が必要であることが見えてきた。

データヘルス計画全体と個別保健事業については、4つの観点（ストラクチャー、プロセス、アウトプット、アウトカム）に基づいて評価したことにより、取り組むべき課題が明確になり、各事業内容においても実施体制の見直しや課題の整理、今後の方向性が確認できた。

また、中間評価を実施した中で、指標や目標値については、より現実的で具体的な目標値に変更したり、目標の再設定をしている。

中間評価をもとに引き続き第2期データヘルス計画の目的・目標の達成に向け事業を行っていく。